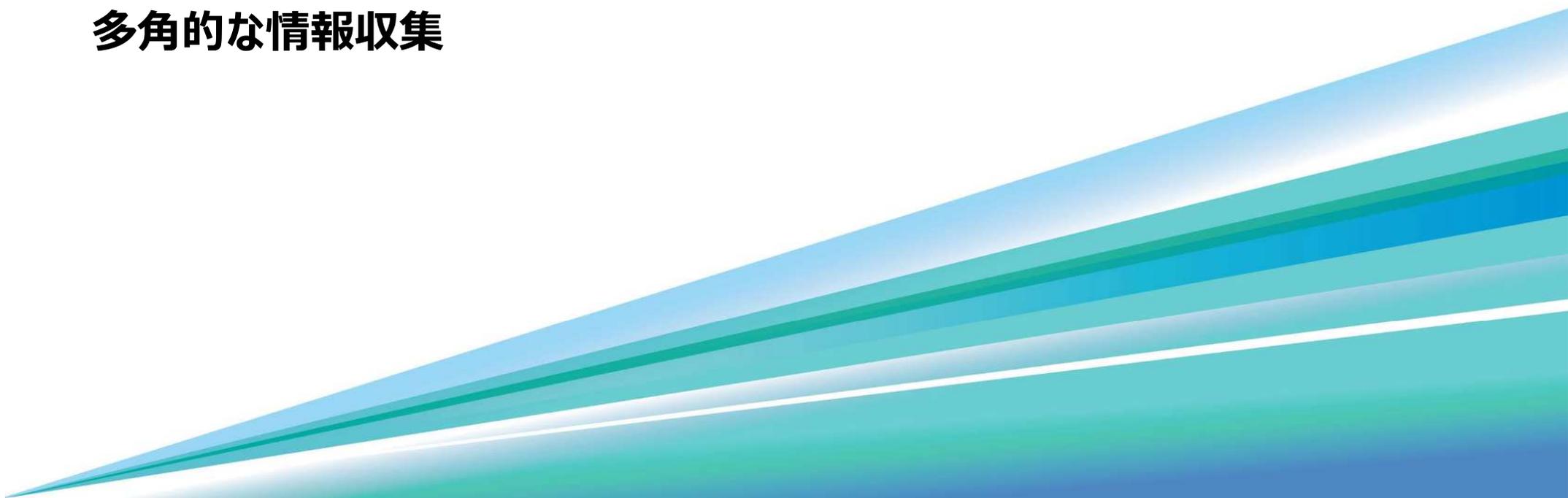


令和6年度 神奈川県介護生産性向上推進活動支援事業

ご利用者支援を充実させるために
多角的な情報収集



施設概要

- 施設名

社会福祉法人 いきいき福祉会 特別養護老人ホーム ラポール藤沢

- 住所

〒251-0871 神奈川県藤沢市善行1-12-9

- 施設概要

入所 100 床 短期入所 20 床 2019 年開設



プロジェクトの概要

応募した理由

- 当事業所は、福祉専門職であり業務効率を上げるための方法や、考え方などに対しては十分な知識や経験が不足している。
- 介護職員の人員不足である現状、会議に割り当てる時間が限られており効率的・効果的に会議の質を高めるためには内部資源のみでは対応できない。
- 内部職員のみでは、緊張感が弱くなりスケジュール管理や結果に対するこだわりが弱くなる可能性がある。

プロジェクトメンバー

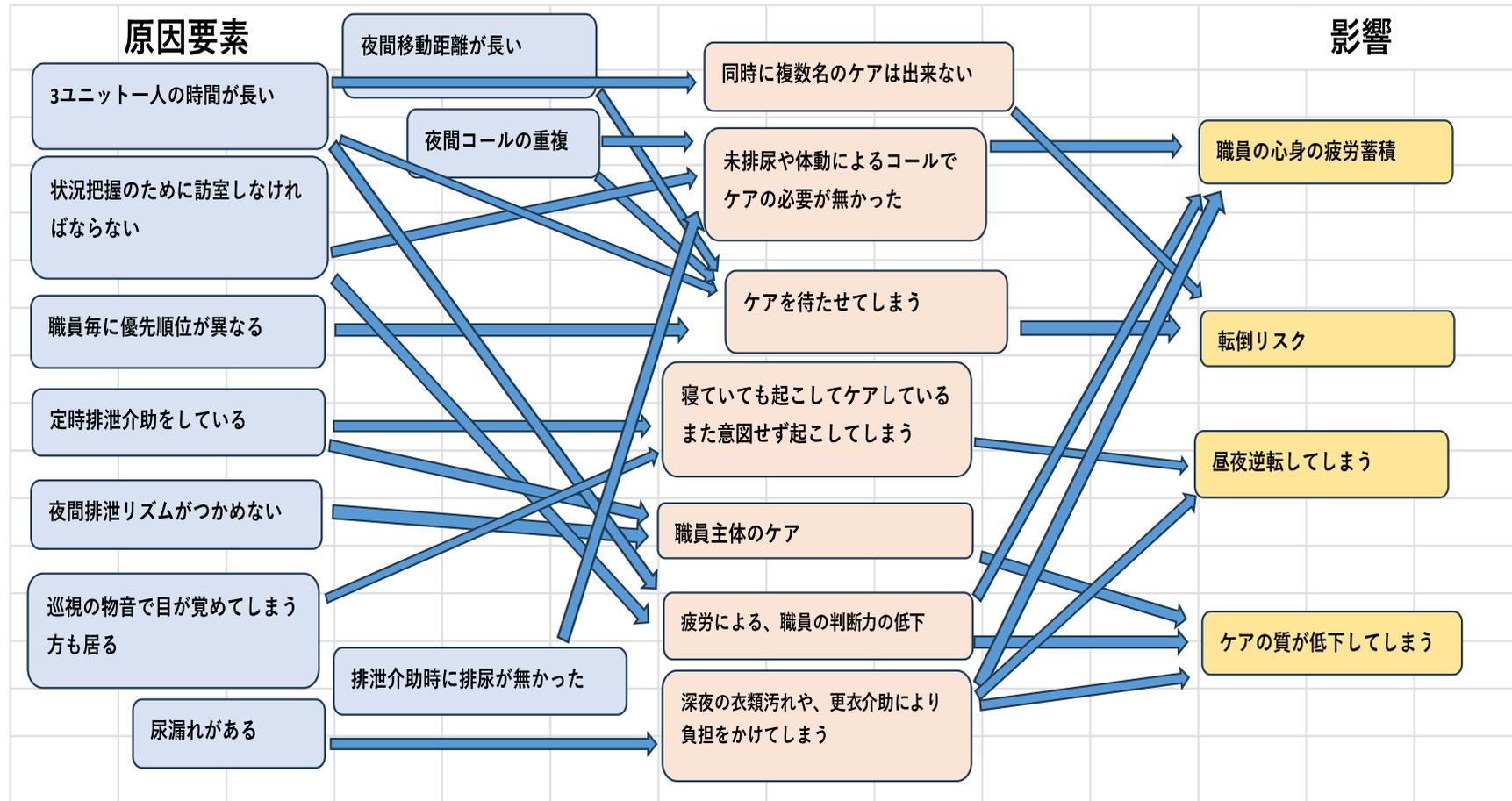
- 鈴木施設長、近澤副施設長、桐山ユニットリーダー

研修時に想定した施設の課題

● 研修時に考えた施設の課題

1. 夜間巡視や排尿のないタイミングでの排泄ケアにより夜間帯に寝ている利用者を起こしてしまう。
2. 排尿の有無が分からず、排せつパターンをつかみ排泄ケアを行っているが出ていないことがある。
3. 夜間職員が一人で3ユニット対応する時間があり、起きてはいるがセンサー反応があった際など確認のための移動が多く負担となっている。

研修時に作成した因果関係図



実際の施設の課題と対応策

● 実際の施設の課題

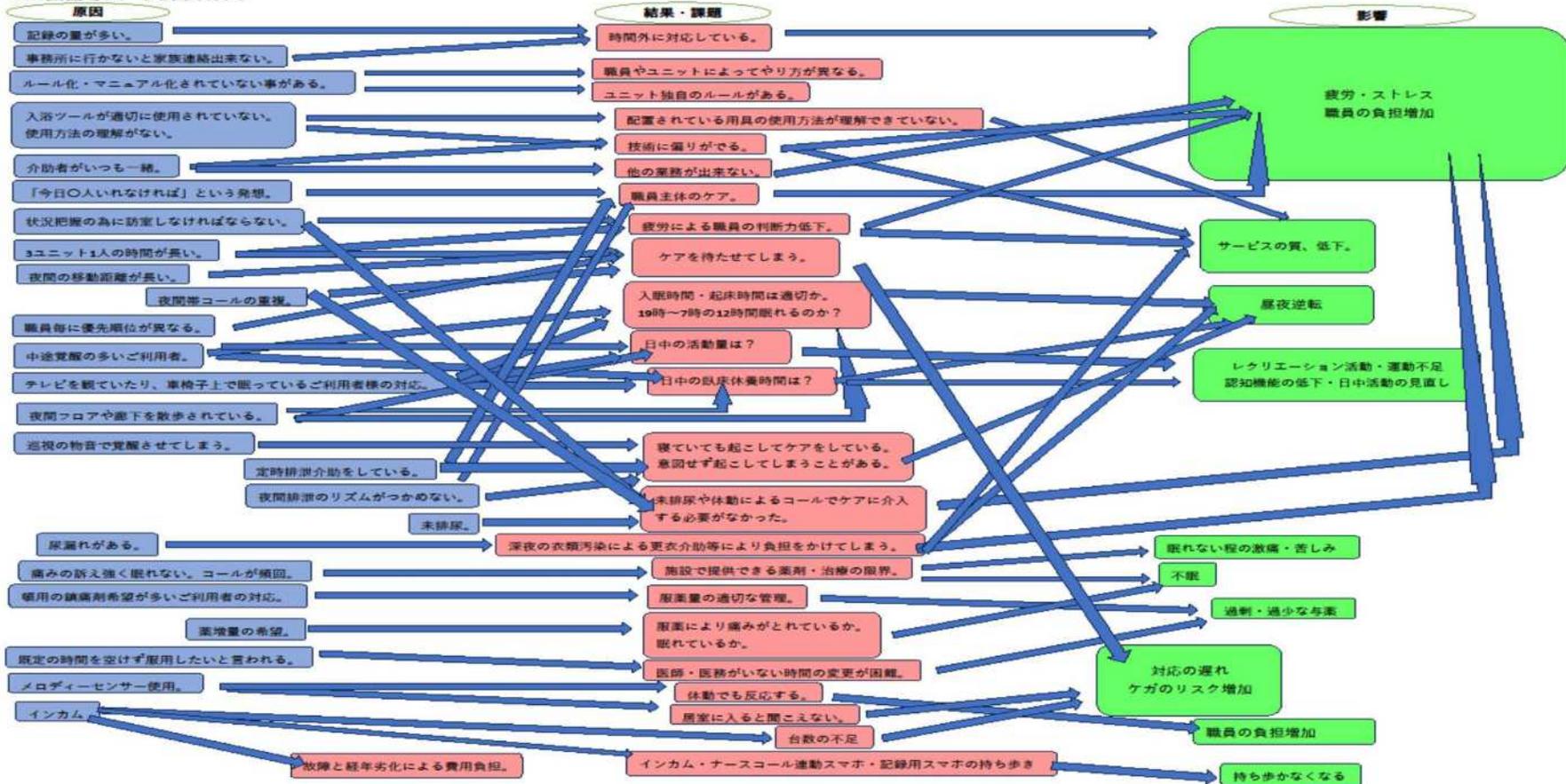
1. 個別ケアを実践する中で、少なからず睡眠状態が日中の活動性に影響されている方がいる事、夜間巡視による物音などにより睡眠を妨害してしまっている可能性から眠りSCANを導入することで、中途覚醒、睡眠の質の改善が望まれる。
2. インカムが有線であり、ケア中に利用者に掴まれるなど様々な要因から断線しやすく、台数もそろっていない為、ユニットを跨いだフロア間のコミュニケーションがスムーズに行えていない。

● 委員会活動の様子

- 業務改善委員会から独立した形で2024年8月にICTプロジェクトを立ち上げ、毎月会議を開催。
- 伴走支援現地研修へ参加した2名以外のメンバーも因果関係図を各々作成、施設の課題を見える化し、研修で体験した機器以外にも課題解決に向けてどのような機器を運用すればよいか活発に意見交換行う。
- また今回導入することが決まった眠りSCANにより、得られると想定する効果をもとにどのように業務やケアの見直しができるか検討おこない、実際に導入されている社会福祉法人 善光会様のご意見を参考に今後どのように導入・運用していくか決定しました。

実際の施設の因果関係図

ICT機器導入 因果関係図



導入する機器と、機器を使用したときに想定される効果

解決すべき課題	課題を解決する機器	選定理由	導入時に必要な工夫
<p>1) 個別ケアを実践する中で、少なからず睡眠状態が日中の活動性に影響されている方がいる事</p> <p>2) 夜間巡視による物音などにより安眠を妨害してしまっていることから睡眠の質の改善が望まれる。</p>	眠りSCAN	<p>利用者の夜間の睡眠状況を把握できるようになる。眠りスキンのデータを活用して日中活動性の向上や個別ケアへのアプローチに役立てる。(質的改善)</p> <p>巡視・訪室回数の減少等が期待される(量的改善)</p>	<p>設置条件により変動が出ないか、背上げなどにより破損のリスクはないか導入前に試行し、誰でも適切に使用できるようにケアシステム上で情報共有できるマニュアルを作成する。</p> <p>臥床姿勢から座位への移行を検知しトイレに案内できる方、眠りSCANとは別にリスク管理するためのツールを導入する方を選別するための目安となるフローチャートを作成する。</p>
有線タイプのインカムを使用しているため断線しやすく、浴室での使用ができない。	インカム ショックス	現在使用しているインカムに対応できる無線式のイヤホンであり、骨伝導タイプであるため耳を塞がず、着用中であっても会話がスムーズに行えるため。	施設全体でインカムが40台までの登録となるため、各部署に必要な台数を再確認の上配置行う。

今後の課題

- 生産性向上により生まれた時間をどう活かすのか、ご利用者とのコミュニケーションの時間やより個別ケアの時間を設ける。また夜間の巡視時間の見直しをおこない介護過程の展開に必要な時間として割り当てる。
- 眠りSCANにより得られたデータをケアの質向上のためにどのように活用するかプロジェクトで実際のデータを基に検討を行う。活用方法の指標ができたらユニット単位でケアの見直しに活用していく。
- 勤務職員が適切にインカムを使用することで、円滑なコミュニケーション、より利用者の生活リズムにそったケアの実践をおこなう。